

ウォーキング夏

愚
銀

芝川は夏草に覆われ どぶ川と言われたが今は結構澄んでいて 魚も泳いでいる
南下すると 右に特別支援学校の正門付近で バスの出入を誘導しているのか 旗を持った人たちに挨拶される
川を越えた左側に三井住友金属鉱山伸銅の四角い塔が聳え 朱いロゴが目立つ
巨大な鉄塔が電線を引つ張って立ち並び 遙かに続く
川添の道と言つてもアスファルトの照り返しは全身を蒸す
プールで遊ぶ小学生たちの嬌声は涼しげだが
足は重い 八月だ

季節とは言え 明らかに地球温暖化という責任が背中にのしかかる
横断歩道のない県道五一号線は渋滞していて

大型トラックの車を掠めるように小走りに渡ると

工事現場の向こうに 渴いた犬の音がする

向こうから走り来る宅配便のトラックに 前期高齢者が手を上げた

顔馴染みなのだそうだ

連れのわたしは知らぬ顔で昨晚凍らせたペットボトルの水を口に含み

芝川から逸れてスポーツ施設の横道に入って行く

高度経済成長の遺した運動公園の林ではあるが

さすがに日射しは和らいで 人々の運動靴がアスファルトを蹴る

武蔵野を歩いているつもりなのわたしにもツイッターは情報を伝達する

原爆ドームの前に 旭日旗を掲げて核武装を訴える日本国臣民の写真

そう言えば、被爆者に「死にぞこない！」と悪罵する少国民もいたのだった

曲がりなりにも享受されてきた平和主義

積極的と冠しただけで 武器を売り 原発を売る

あまつさえ戦争そのものに参画しようとしているのに

ビニールの雨合羽を着た男が積極的に平和を誓う

運動公園のトイレに入った前期高齢者が出て来た

わたしを探してあらぬ方向へ歩んで行こうとするので

思わず声を上げた

「こつちです！」

彼の父親は長崎の炭鉱で働いていたのだった

公園を抜けて再び渋滞する県道五一号線を、今度は信号機のある横断歩道で渡った

どこを歩いてもアスファルトの道だ

そろそろ膝関節が腫れてきたようだ

そもそも腰痛で右足が痺れている

白いバンダナで額の汗を何度もぬぐう

ソウル鍾路ジョンロの露天で買った一〇〇円のやつだ

親日派政権が長く続いた韓国に やつと民主主義が芽吹いた頃だった

円安の現在ではいくらになるのか

日本大使館前に人々が集まる

ネットの世界ならずとも罵詈雑言が闊歩する

「朝鮮人を殺せ！ 韓国人を殺せ！ 中国人を殺せ！」

「朝鮮人を殺す人もいたが、助ける人もいた、から大和魂は平等だ」

「犠牲者もあつたが、アメリカの兵士は助かった、ので原子爆弾も平和の武器だ」
白く太った軍服もどきが行進するのがこの国の形だ

国道一七号の裏道を北上すると、地上二十八階のタワーマンションが見えて来た
辿り着いたら コーヒーショップで小休止

一杯二〇〇円のコーヒーを前期高齢者になつた友人におごつて貰い

涼んだら また歩き始める

悪意

愚銀

圧迫骨折で背の縮んだ母の 脂肪の塊である腹に針を刺しながら考える。

なぜ 白杖の少女を蹴飛ばすのか

盲導犬を刺すのか

猫たちに毒を盛るのか

自分の子どもを殴るのか

口々に罵りの言葉を叫ぶのか

排斥のプラカードを掲げるのか

五秒数えて針を抜く

僕の二の腕に四センチの引つ掻き傷が浮いている

母の糞尿にまみれた爪の痕跡だ

一寸した隙に染み込んでくる

憎悪

怒鳴る母に逆上する

自信をなくした人々は

他人を貶める

「在日特権」と言い、「障害者特権」と非難し、「原発避難民特権」と叫ぶ
俺にとっては「呆け老人特権」だ

それで満足するのか

虚栄心は満たされるのか

日の丸を掲げれば あなたは偉くなったのか

アイドルより下手くそな声で「君が代」が歌えるのか

「良い先生ですよね」

ケアマネージャーさんが言った

母の担当医は、なかなか評判も良いようだが

息子は評判倒れだ